

国 語

1 教育課程の編成

(1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

高等学校国語科には、「現代の国語」、「言語文化」、「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の6科目がある。科目構成の上からこの6科目の関係をみると、教科の基本的な科目として、「現代の国語」及び「言語文化」が総合的な言語能力を育成することを目指す必履修科目として置かれている。その他の選択科目は、必履修科目の〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕のそれぞれについて、各科目の性格や性質に応じて深化、発展を図る形で配置されている。

こうした科目の性格や特質を踏まえ、教科の目標を達成するために必要な教育課程を適切に編成することが重要である。

(2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

ア 科目の構成、標準単位数、履修の方法及び条件

科目名	標準単位数	科目の履修区分	各科目の領域別の授業時数(単位時間程度)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	2単位	必履修	20～30	30～40	10～20
言語文化	2単位		5～10	【古典】 40～45 【近代以降の文章】 20	
論理国語	4単位	選択		50～60	80～90
文学国語	4単位			30～40	100～110
国語表現	4単位		40～50	90～100	
古典探究	4単位				※

(※ 「古典探究」については、扱う領域が1領域(「読むこと」のみ)のため、授業時数を示していない。)

今回の改訂では、平成28年12月21日「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」において指摘された、高等学校国語科の課題を踏まえ、必履修科目の〔思考力、判断力、表現力等〕における「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の授業時数が増加している。

また、「古典探究」を除く科目において、〔思考力、判断力、表現力等〕に「書くこと」の領域を設け、論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章を書く資質・能力の充実を図った。特に、論理的な文章を書く資質・能力の育成については、「現代の国語」や「論理国語」を中心に充実を図っている。

イ 必履修科目「現代の国語」及び「言語文化」

必履修科目である「現代の国語」及び「言語文化」は、中央教育審議会答申に示された高等学校国語科の課題をそれぞれ踏まえて新設した。

「現代の国語」については、主として「話合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」という課題を踏まえ、特にこうした課題が、実社会における国語による諸活動と関係が深いことを考慮し、実社会に

おける国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目として、その目標及び内容の整合を図った。

一方、「言語文化」については、主として「古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらない」という課題を踏まえ、特にこうした課題が、古典を含む我が国の言語文化への理解と関係が深いことを考慮し、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目として、その目標及び内容の整合を図った。

必履修科目を1科目の総合的な科目ではなく、2科目新設したのは、これらの科目を、それぞれの課題を踏まえた、これからの時代に必要とされる資質・能力を明確にした科目として設定することにより、高等学校国語科の課題の確実な解決を図るためであることに留意することが大切である。

「現代の国語」及び「言語文化」については、いずれも総合的な言語能力を育成することを旨とする必履修科目であることから、中学校を卒業した全ての生徒が、原則として、選択科目に先んじて高等学校で履修する科目である。そのため、これらの科目の指導については、中学校国語科との関連について十分配慮することが必要である。

ウ 選択科目「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」

選択科目においては、必履修科目である「現代の国語」及び「言語文化」において育成された能力を基盤として、「思考力・判断力・表現力等」の言葉の働きを捉える三つの側面（創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面）のそれぞれを主として育成する科目として「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」が設定された。また、「言語文化」で育成された資質・能力のうち「伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とする「古典探究」が設定された。

これらの選択科目については、必履修科目で育成された資質・能力を基盤として、さらにどの資質・能力を育成するかを明確にした選択ができるよう設定されている。

選択科目である「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目の履修順序については、原則として、「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させるとしているだけで、選択科目相互の順序は示していない。

なお、「原則として」としているのは、例えば、「現代の国語」、「言語文化」を2以上の連続する年次にわたって分割履修するような場合に、2年次目においては、選択科目を同時に履修することができることを可能とするものである。

エ 標準単位数の増減

(ア) 各学校の実態に応じて、標準単位数を超えて単位を配当することは差し支えないが、単位数の増加を行う場合は、1(2)アの表で示した「各科目の領域別の授業時数」を基に、増加した単位の割合に比例した授業時数が領域ごとに確保される必要がある。

(イ) 必履修科目である「現代の国語」及び「言語文化」の単位数の一部を減じることができないが、選択科目においても、標準単位数の一部を減じることが望ましくない。しかし、生徒の実態から標準単位数より短い時数で科目の目標の実現が可能で

あると判断できれば、標準単位数の一部を減じることは可能である。

なお、標準単位数の一部を減じる場合は、1(2)アの表で示した「各科目の領域別の授業時数」を基に、減じた単位の割合に比例した領域別の授業時数が領域ごとに確保される必要がある。

また、「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目を、2単位で履修することは認められない。

以上のことを踏まえて、各学校においては、必修科目の履修学年や、選択科目の履修順序及び履修学年などについて十分な検討を行い、生徒の特性や学校の実態等に
応じた教育課程の編成や指導計画の作成を行うことが重要である。

(3) 特色ある教育課程の編成

ア 学校全体の共通理解に基づく言語活動の充実

社会人として必要とされる国語の資質・能力の基礎を確実に育成するためには、学校生活において、その生活全体の中で国語に対する関心や理解を深め、国語に関する資質・能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実するよう努めることが大切であり、それには学校全体の共通理解が必要である。国語科はその中心となって、生徒の言語に関する能力の育成を目指し、直接かつ計画的に指導することが求められており、この意味で、国語科の果たす役割と責任は極めて大きい。

イ 国語科と他教科等の連携

言語能力は、全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である。このため、言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが重要である。その際、国語科と同様、言語を直接の学習対象とする外国語科との連携は特に重要なものとなることに留意することが大切である。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

新学習指導要領では、1(2)アの表のとおり、各領域の授業時数を示している。各科目の指導計画を作成するに当たっては、この表に示された授業時数を満たす計画が必要である。

なお、当該領域において育成を目指す資質・能力は言語活動を通して育成する必要があるが、従前と同じく、例えば、話合いの言語活動が、必ずしも「話すこと・聞くこと」の領域の資質・能力のみの育成を目指すものではなく、「書くこと」や「読むこと」における言語活動にもなりうることから、指導計画を作成する際は、育成を目指す資質・能力（目標）と言語活動とを同一視しないよう十分留意する必要がある。

以下、学習内容の改善・充実に係るポイントを示す。

ア 語彙指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景には語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は言語能力を支える重要な要素であり、語彙を豊かにする指導の改善・充実にを図ることは重要である。語彙を豊かにするためには、小・中学校との系統を重視しながら、意味を理解している語句の数を増

やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高める指導が必要である。今回の改訂では、国語科の全科目において語彙についての指導事項を設け、「語句の量を増やすこと」と、「語句についての理解を深めること」の二つの内容で構成している。

【必履修科目「現代の国語」及び「言語文化」における指導事項】

	現代の国語	言語文化
語彙	エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、 <u>話や文章の中で使うことを通して</u> 、語感を磨き語彙を豊かにすること。	ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、 <u>文章の中で使うことを通して</u> 、語感を磨き語彙を豊かにすること。

イ 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されたことを受け、国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つとして、「知識及び技能」の中に「情報の扱い方に関する事項」が新たに位置付けられた。この事項は、「情報と情報との関係」、「情報の整理」の二つの内容で構成し、「現代の国語」及び「論理国語」に系統的に示している。

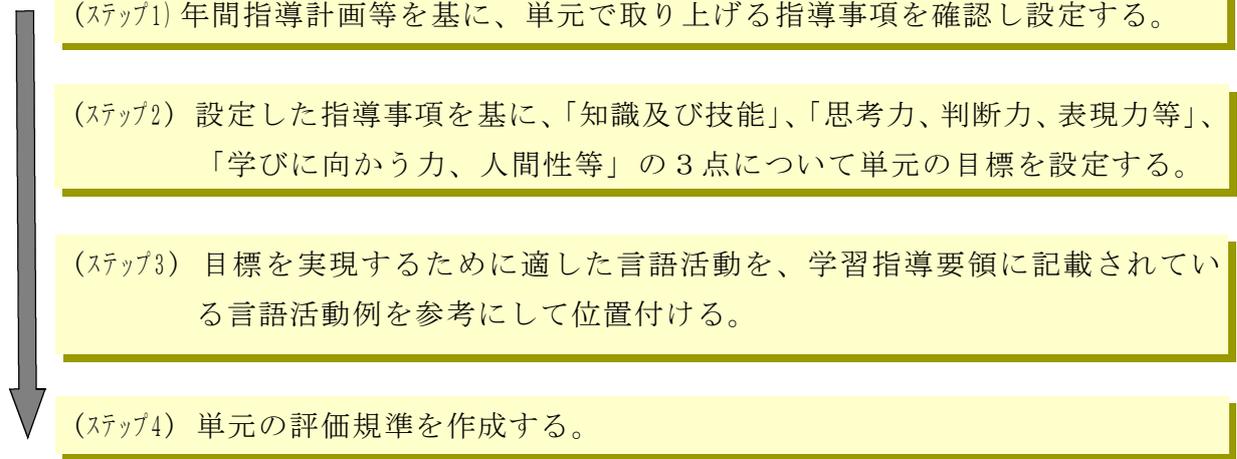
【必履修科目「現代の国語」及び「言語文化」における指導事項】

	現代の国語	論理国語
情報と情報との関係	ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。 イ 個別の情報と一般化された情報と関係について理解すること。	ア 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。
情報の整理	ウ 推論の仕方を理解し、使うこと。 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。 オ 引用の仕方や出典の示し方、その必要性について理解を深め使うこと。	イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。 ウ 推論の仕方について理解を深め使うこと。

(2) 単元の指導計画作成上の留意点

ア 単元の指導計画の作成

単元の指導計画は、次に示す流れで作成する。



イ 新学習指導要領に基づいた単元の指導計画作成例

<p>科目名 言語文化</p> <p>単元名 文章の構成や展開を確かめる B 読むこと</p>	<p>ステップ1・2</p>						
<p>1 単元の目標</p> <p>(1) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。〔知識及び技能〕 (2)イ</p> <p>(2) 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。〔思考力、判断力、表現力等〕 B読むこと(1)ウ</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>	<p>各目標において学習指導要領の指導事項との関係が明示されているか</p> <p>各単元で設定する目標は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等（3領域のいずれか1つ）」「学びに向かう力、人間性等」の3つ</p>						
<p>2 取り上げる言語活動と教材</p> <p>言語活動：古典を双六にすること</p> <p>教材：「あづま下り」（『伊勢物語』）</p>	<p>ステップ3</p>						
<p>3 具体的な評価規準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">知識・技能</th> <th style="width: 33%;">思考・判断・表現</th> <th style="width: 33%;">主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left; padding: 5px;"> 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 </td> <td style="text-align: left; padding: 5px;"> 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 </td> <td style="text-align: left; padding: 5px;"> 進んで古典の世界に親しみ、学習の見通しをもって、作成した双六と本文を照合させながら、粘り強く文章の構成や展開を理解しようとしている。 </td> </tr> </tbody> </table>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	進んで古典の世界に親しみ、学習の見通しをもって、作成した双六と本文を照合させながら、粘り強く文章の構成や展開を理解しようとしている。	<p>ステップ4</p>
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	進んで古典の世界に親しみ、学習の見通しをもって、作成した双六と本文を照合させながら、粘り強く文章の構成や展開を理解しようとしている。					
	<p>各単元で設定する評価規準は、「知識・技能」「思考・判断・表現（3領域のいずれか1つ）」「主体的に学習に取り組む態度」の3つ</p>						

4 指導と評価の計画

本単元における学習の見通しを持たせる

次	学習活動	具体的な評価規準と評価方法
1	<p>○ 文章の構成や展開を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読み、脚注や現代語訳等を参考にしながら、本文の内容を捉えるとともに<u>今後の学習の見通しを持つ</u>。登場人物が旅した経路や和歌の修辞などについて<u>タブレット端末等を用いて個人で調べる</u>。 グループで、文章の展開を、場所の変化と、「気持ちが先に進む要素」、「気持ちが後戻りする要素」に当たる部分とが、時系列で分かる表にまとめる。 	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(知識・技能) <p>【評価方法】</p> <p>「記述の点検」</p>
2	<p>○ 文章の構成や展開を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1次で作成した表を基に、グループごとに双六を作成する。 双六を実際に行い、自分たちのグループが作った双六に、読み取った内容が反映しているかどうかを検討する。 	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(思考・判断・表現) <p>【評価方法】</p> <p>「行動の観察」</p>
3	<p>○ 文章の効果的な表現について考察する</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに、他のグループが作成した双六を実際に行い、共通点や相違点を相互に検討しまとめる。 <u>各グループが作成した双六の構成や展開等の妥当性について、個人で、本文の記述を確かめながら検討する</u>。 	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(思考・判断・表現) <p>【評価方法】</p> <p>「記述の点検」</p>
4	<p>○ 学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元を通して学んだ、<u>文章の構成や展開、表現の特色</u>について自分の考えをまとめる。 	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>進んで古典の世界に親しみ、学習の見通しをもって、作成した双六と本文を照合させながら、粘り強く文章の構成や展開を理解しようとしている</u>。(主体的に学習に取り組む態度) <p>【評価方法】</p> <p>「記述の分析」</p>

家庭学習としてもよい(学習の重点化を図る)

評価規準と学習活動の整合を図る

評価の場面は、1単位時間に1~2回程度

評価規準を見取るのに適した評価方法を明示する

具体の評価規準と観点を明示する

【「言葉による見方・考え方」を働かせる場面】
本文の記述を読み返し、文章の展開や構成等を確認する

単元の目標に照らして学習を振り返り、次の学習につなげる

「各次」は、指導の流れを段階的に示したものであり、生徒の実態に応じて、適切な授業時数を配当する

3 主体的・対話的で深い学びの実践例

(1) 新学習指導要領における「書くこと」の指導

中央教育審議会答申においては、ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため、平成21年告示の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。

また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた。

さらに、「考えの形成」のうち、探究的な学びの要素を含む指導事項を、全ての選択科目に位置付けた。なお、「国語表現」については、特定の指導事項ではなく「書くこと」の学習過程全体に探究的な学びの要素を位置付けている。

次の表は、新学習指導要領における「書くこと」の学習過程と指導事項の内容をまとめたものである。

学習過程	指導事項の内容
○題材の設定、 情報の収集、 内容の検討	目的や意図に応じて題材を決め、情報を収集・整理し、伝えたいことや表現したいことを明確にすること
○構成の検討	文章の構成を検討すること
○考えの形成、 記述	記述の仕方を工夫し、自分の考えや主張、事柄などが的確に伝わる文章にすること
○推敲 ----- ○共有	読み手の立場に立ち、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章の特長や課題を書き手自身が捉え直したりすること

学習過程は、指導の順序性を示すものではないため、指導事項を必ずしも上から順番に指導する必要はない。

これらのことを踏まえ、次ページでは現行学習指導要領「現代文B」における実践例を示した。ここでは、「書くこと」の学習過程のうち、特に「考えの形成、記述」に重点を置き、「地球の未来の環境のために私ができること」というテーマでプレゼンテーションを行う言語活動を通じて、自分の考えや主張、事柄などが相手に的確に伝わるよう論理の展開を考え、読み手の理解を得るために文章の構成や展開を工夫したり、説得力のある根拠を示しながら意見を述べる力を身に付けることをねらいとしている。

(2) 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における「現代文B」の実践例

1 単元名 自分の意見を筋道を立てて主張しよう。		
2 単元の見どころ <ul style="list-style-type: none"> 読み手の理解が得られるよう、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えをまとめようとする。(関心・意欲・態度) 読み手の理解が得られるよう、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えをまとめる。(書く能力) 書くことに必要な文章の組み立て、語句の意味、語句の用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、説得力のある文章の特色について理解する。(知識・理解) 		
3 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 <ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。 (2) 教材 (例) <ul style="list-style-type: none"> 評論 (岩井克人「未来世代への責任」等) 		
4 単元の具体的な評価規準		
関心・意欲・態度	書く能力	
・読み手の理解が得られるよう、論理の構成や展開を工夫し、自分の考えの妥当性を裏付ける根拠を示しながら、考えをまとめようとしている。	・読み手の理解が得られるよう、論理の構成や展開を工夫し、自分の考えの妥当性を裏付ける根拠を示しながら、考えをまとめている。	
知識・理解		
・書くことに必要な文章の組み立て、語句の意味、語句の用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、説得力のある文章の特色について理解している。		
<p>本単元においては、「書く能力」の育成を目指し、論理的な文章を読んで本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する学習活動を設定している。この活動を通して、説得力のある文章の特長を理解し、読み手を意識して文章の構成や展開を工夫できるようにする。(関連する学習指導要領の指導事項「現代文B」内容エ、オ)</p>		
5 単元の指導計画		
次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の注意点
第1次	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体の学習の見直しをもつ。主 「未来世代への責任」の読解。筆者の論の展開、根拠の提示の仕方を理解する。全体学習 主 文章の構成図を中心とした教師によるプレゼンテーションで、内容を理解する。 「環境問題は経済学で解決できるのか？」というテーマについて、相反する2つの段落の内容について教師によるプレゼンテーションを聞いた後、どちらを支持するかクラス投票をする。 投票によりグループを分ける。学びの重点化 	<ul style="list-style-type: none"> 「地球の未来の環境のために私ができること」というテーマについて、読み手の理解が得られるような意見文を書くことが学習のゴールであることを生徒に予告する。 教師によるプレゼンテーションは、第2次でグループ発表をする際の参考にさせる。 「読み手の理解が得られるような意見の提示の仕方」について、 <ul style="list-style-type: none"> 根拠や具体例を提示すること 論理の構成や展開を工夫すること 分かりやすく、正確な語句の用い方をすること等
第2次	<ul style="list-style-type: none"> 相手の理解が得られるような意見文を書くことを目指し、論理の構成や展開を整理するため、「地球の未来の環境のために私ができること」というテーマで、意見発表のプレゼンテーションを行う。グループ学習 4人1班となり、意見を1枚のシートにまとめた構成図を作る。対 深 ICTの活用 プロジェクターで写し、班ごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要であることに、生徒自身に気付かせる。 特に、話し合いを通して、意見を裏付ける根拠の確かさが妥当性を高めることを、生徒に理解させる。 構成や展開と、論拠の示し方を意識しながら、プレゼンテーション資料を作成するよう指示する。
第3次	<ul style="list-style-type: none"> 10班の発表の中から、説得力のある文章の特徴を踏まえているものに投票をする。全体学習 プレゼンテーションでの10班の論と根拠を参考にして、600字の意見文にまとめる。 班で意見文を読み合い、相互評価する。主 対 単元の学習を振り返り、学習の成果と課題を整理する。個人学習 深 	<ul style="list-style-type: none"> 選ばれた班の良いところを、各自で確認するよう指示する。 相互評価の評価規準は、第1次で学習した「読み手の理解が得られるような意見の提示の仕方」の3点とする。 学習の振り返りから、生徒が文章の構成と説得力のある根拠の提示について理解できたかを確認する。

学びの重点化

本単元を通じて理解させたい内容のため、常に意識させる

主…主体的な学び **対**…対話的な学び **深**…深い学び